キャラクター名
岸　壱沙（きし　いっさ）

プレイヤー名

シンドローム	モルフェウス ハヌマーン	ワークス	UGN支部長B	カヴァー	UGN支部長B
オプショナル		年齢	26	性別	男性
覚醒	償い	衝動	闘争	初期侵食率	34 %
出自	貧乏	経験	UGNへの忠誠	邂逅	同志（セーミス・ゼロ）

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値
肉体	2	0	0			2
感覚	3	1	3			7
精神	1	0	0			1
社会	2	0	0			2

HP	25
行動値	15
(非装備時)	15
戦闘移動	20
全力移動	40

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵			射撃	5		ＲＣ			交渉		
回避	1		知覚	1		意志			調達	1	
運転：			芸術：			知識：			情報：UGN	1	
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
セーミス・ゼロ（フォールンピストル）	射撃	7r+5	0	8		この武器による判定の直前に使用することで、攻撃に対するリアクションのC値+1（この効果はｍシナリオ3回）
セミゼロ+水晶の剣	射撃	7r+5	0	18		
百年の眠り	射撃	9r+5	0	8+10		ペネトレイト+援護の風/侵蝕5+2/装甲無視/攻撃の判定ダイス-1
@100	射撃	13r+5	0	8+12		侵蝕5+2

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

合計装甲：	0	合計回避：	0

所持品	
セーミス・ゼロ（フォールンピストル）	
思い出の一品	
情報収集チーム	

ロイス				
対象	感情(pos)	感情(neg)	タイタス	消費
無二の相棒（ソウルバディ）	P	N		
セーミス・ゼロ	P　信用	N　不安		
上司（昇華）	P　感服	N　隔意		
ソルト	P　信頼	N 疎外感		
ショウ	P　信頼	N 疎外感		
ラウディーセル（昇華）	P　執着	N 敵愾心		
紫雲英市支部	P　尽力	N　不安		

最大財産P:　6	残り財産P：　2

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果：非オーヴァードのエキストラ化								
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果：コスト分のHPで復活								
コンセントレイト：モルフェウス	3	2	メジャー	-	-	シンドローム	-	
効果：C値-Lv（下限7）								
ペネトレイト	1	3	メジャー	視界	-	白兵,射撃	-	
効果：装甲無視/この攻撃の判定ダイス-1個								
援護の風	3	2	オート	武器	単体	-	-	
効果：対象が判定を行う直前に使用/判定ダイス+Ｌｖ個/1ラウンド1回								
クリスタライズ	3	4	メジャー	-	-	シンドローム	100↑	
効果：攻撃力+[Lv*3]/装甲無視/1シナリオ3回								
急速分解	★	-	メジャー	至近	効果参照	-	-	
効果：様々な物品を触れるだけで砂に変えることができる/必要に応じて制限をかけたり、<RC>判定を行う								
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								

【概要】
UGNに忠誠を誓うUGNエージェント。モルフェウスとハヌマーンのクロスブリード。
砂の結晶を作ったり、風を操ったりできるが、《急速分解》の力を持つ弊害で常に砂まみれであり、砂が目に入ったり風が目に沁みたりしてよく泣く。
本人は、泣くのは飽くまで外的要因であり泣き虫ではないと主張している。
もはや悲しくて泣いているのか、砂や風で泣いているのか判断がつかない
性格は生真面目。上に立つ者として威厳を保つため、口調を変えたりなどしているがしばしばボロが出ているようだ。
数年来の相棒であり愛銃でもある『セーミス・ゼロ（理を外れた者）』のことをセミゼロと呼び、とても大切にしている。

【コードネーム】
砂漠を渡る海風（サンド・シー・ブリーズ）。
塩辛い涙を流しながら風を操り、敵を結晶化させて『砂漠のバラ』のような砂の結晶を作り続ける姿からそう名付けられた。

【経歴】
かつて非常に貧乏な家庭に生まれた壱沙は、生きるのに必死だった。
両親は借金取りにどことも知らぬ場所へと連れて行かれてしまった。
それを止められなかった罪の意識からオーヴァードとなり、UGNに入って、両親の所在を掴むため、がむしゃらに頑張った。
UGNの支援を受けながら調査し続けた結果、両親は実験台として使い捨てられ、もはやこの世にはいないことを知った。
復讐は果たしたが、一度は失意に飲まれた壱沙を動かしたのは、自分のような人間を増やしてはいけない、という責任感だった。

そしてもう一つ、彼の人生を変えた存在がある。
ある日壱沙は、UGNに保護された特殊な銃の使用者として、思いがけず適合することになった。
それは人であり兵器でもあるレネゲイドビーイングだ。